

【学力向上フロンティアクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	千葉県
-------	-----

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	丸山町立南小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	13
児童数	26	24	28	30	26	27	1	162	

II 研究の概要

1. 研究主題

確かな学力を身につけていく子どもの育成  
 - 一人一人が意欲的に学ぶ算数科の指導を通して -

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

1年生～6年生の算数科  
 算数科は、教科の基礎・基本が明らかにしやすく、また既習の基礎・基本が次の学習で直接活かされ、その習得状況が児童の学力に反映しやすいので研究教科とした。  
 そして、この算数科での基礎・基本を押さえた学力の向上のための実践が、他教科において広げていくために、基のパターンとするためのものでもある。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ テーマ                              確かな学力を身につけていく子どもの育成                              - 一人一人が意欲的に学ぶ算数科の指導を通して -</li> <li>○ 研究の見通し                              基礎・基本の内容を観点別に明らかにしたものをもとに、児童の実態に応じた指導法を工夫すれば、子どもたちは意欲的に学びながら、確かな学力を身につけていくと考え、子どもの個人差に対応した指導方法・指導形態等の工夫を行い、基礎・基本の確実な定着を図りながら、子どもたち個々に「確かな学力」を育んでいく。</li> <li>○ 研究の内容・方法                              算数科において、基礎・基本の定着を重視し、個人差を配慮した少人数指導等の指導法を中心に、繰り返し学習や教材開発等を研究し学力の向上を図る。                              具体的な内容としては、                             <ul style="list-style-type: none"> <li>① 「基礎・基本」を押さえた取り組み                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>ア. 「基礎・基本」の分析し明確にする。</li> <li>イ. 観点別「基礎・基本」の整理する。</li> <li>ウ. 「基礎・基本」を生かした指導計画を作成する。  単元で習得させる「基礎・基本」と毎時で獲得させる「基礎・基本」を明らかにする。</li> <li>エ. 「基礎・基本」の定着を、より確かなものとする反復学習を行う。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
--------	--

② 個々を大切にした指導

- ア. 実態・ねらいに即した指導形態を試行し基本となるパターンを作成する。
- イ. 診断テストや教師の評価による児童の実態把握に努め、指導方法を決定していく。
- ウ. 学習指導打合せ時間を確保し、学力の実態の把握や指導法について打合せを行う。
- エ. 指導形態のパターン化を図り、年間指導計画に位置付ける。

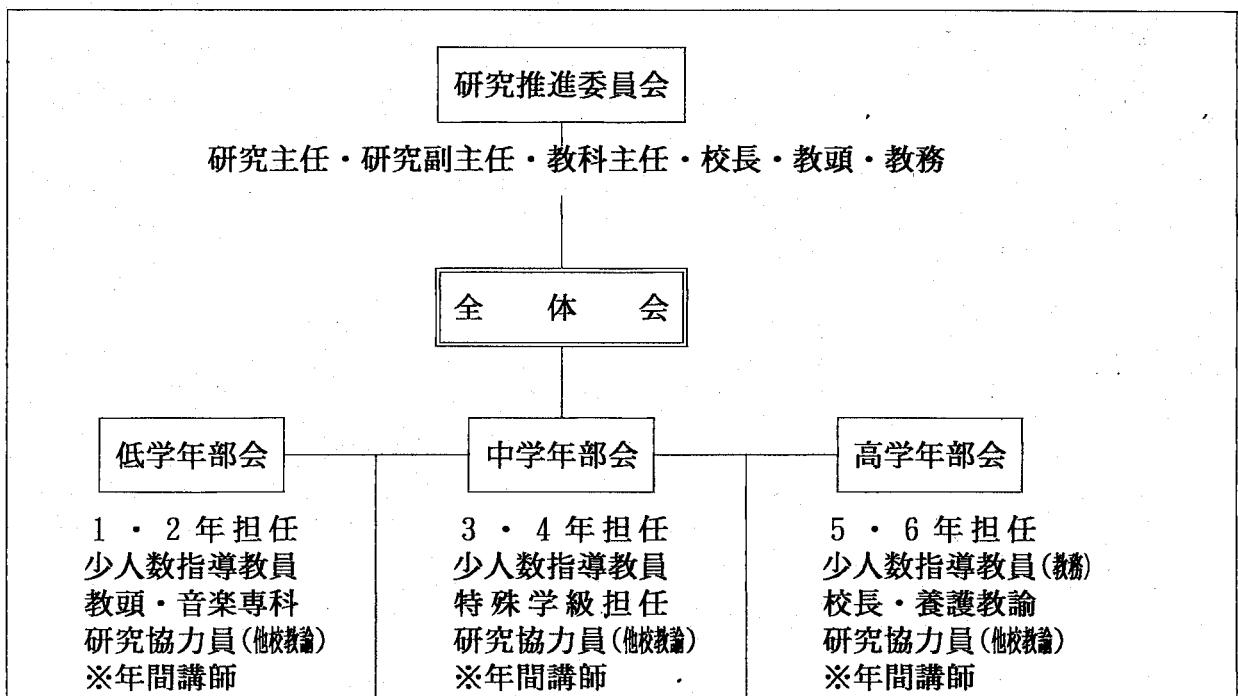
③ 学習意欲を持続・向上させる取り組み

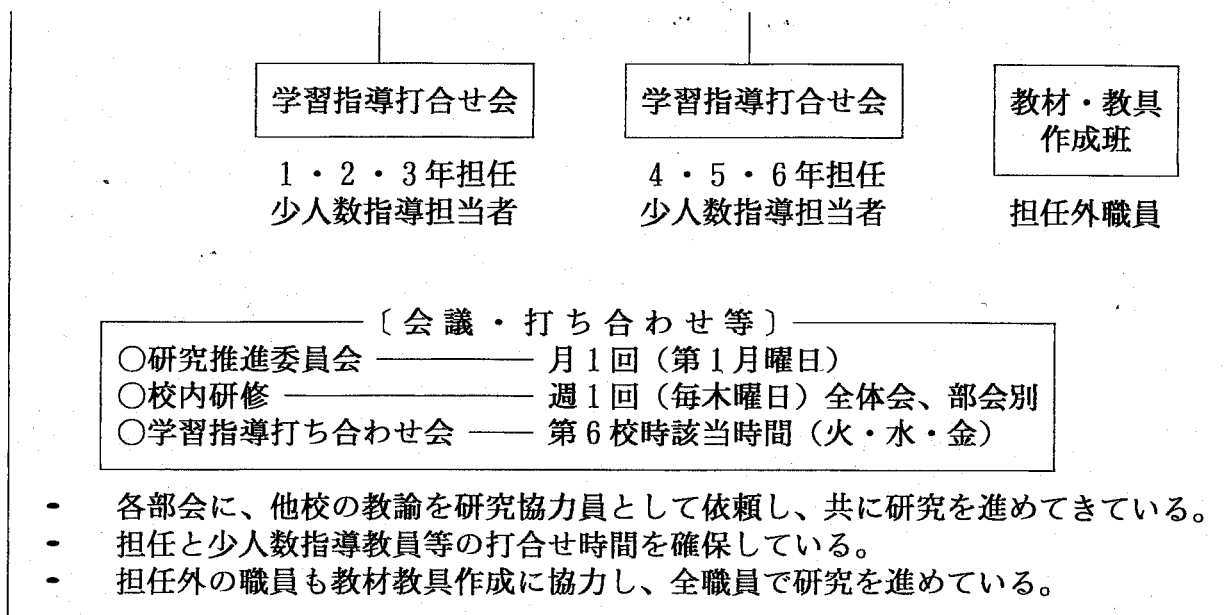
- ア. 児童の意欲を大切に、指導方法の決定や教材・教具の工夫を行う。
- イ. 学習意欲を喚起・醸成させるために、指導中での教師の評価を工夫する。

平成  
16  
年  
度

- テーマ  
確かな学力を身につけていく子どもの育成  
- 一人一人が意欲的に学ぶ算数科の指導を中心として -
- 研究の見通し  
15年度で、実施作成した基礎・基本の表や指導形態パターン表の検証や有効活用を図れば、より効果的な指導方法が整い、また評価との一体化を進めていけば児童の学力は確実に向上していくものと考ええる。
- 研究の内容・方法  
算数科を中心に据えながら、他教科における学力向上も視野に入れながら、以下の視点で研究を進めていく。
  - ① 作成した「基礎・基本」の表の見直しを行う。
  - ② 指導形態のパターン化と年間計画への位置づけを検証する。
  - ③ 学習意欲を向上し、学力を伸ばす評価の在り方について研究を進める。
  - ④ 学力の定着度を測るための方法や分析の仕方を研究する。
  - ⑤ 学力の定着を、確かなものとするための補充・発展学習を実施していく。
  - ⑥ 算数科で行った「基礎・基本」を押さえた指導を、他教科においても試行していく。

(3) 研究推進体制





### Ⅲ 平成15年度の研究の成果及び今後の課題

#### 1. 研究の成果

- ① 新しい基礎・基本を獲得するためには、必ずそこには、既習事項や既有経験が支えとなり、教師自身はその支えとなるものを系統的に把握していくことが必要となる。そのために基礎・基本を明確にした表を作成し、どの指導者が指導に参加しても、ねらいをはずさないように指導ができるようになった。
- ② 既習の知識や考え方を使って自力解決ができるようになった。また児童一人一人が自分なりに、学習した満足感を味わえるようになり、算数の学習に意欲的に取り組めるようになった。
- ③ 個々を大切にした指導の工夫ということで、習熟度別グループを中心に少人数指導を行ってきたが、単元の流れの中で深め合うような場面等では、一斉指導が効果的な事わかった。児童の学習効果を高めるために、少人数指導、T・T型一斉指導を適宜組み合わせた指導形態別単元表を作成することができ、単元全体を常に見通した学習計画のもとで、計画的な指導ができるようになった。
- ④ 習熟度別少人数学習は、最終的には児童がコースを選択決定しているが、場を重ねるにしたがい、自分に合ったコースを選択できるようになり、児童自身の自己評価・学習到達度の自覚認識につながり、自己決定のもとでの学習であるため、学習意欲の向上が図れてきている。
- ⑤ 指導方法・指導形態・教材教具の工夫改善により、児童の学習効果に高まりが見られ、また、複数体制での指導であるため、児童に目が行き届きやすく、児童も個別指導を受けやすくなったり、自発的な発言や活動の機会も多くなり、積極的な学習活動が展開できるようになった。  
また、このことにより理解力、思考力、表現力、意欲・関心の伸長が見られる。
- ⑥ 毎朝の繰り返し学習、授業の中で適宜組み入れる計算学習等で、児童の計算力や技能に高まりが見られてきている。

#### 2. 今後の課題

- ① より効果的なT・T型一斉指導と少人数指導を行うために、作成した指導形態別単元表の検証・見直しが必要。
- ② 補充・発展学習の内容及び実施に伴う枠組み作り。
- ③ 学習意欲を持続・向上し、学力を伸ばすために、より効果的な指導と評価の在り方について再検証を進め、確かな方法を練り上げる。

- ④ 算数科での方法を基にして、他教科においても基礎・基本を押さえ踏まえた年間指導計画の作成と授業実践を推進していく。
- ⑤ 児童の変容を把握していくための、学力調査や意識調査を行い、分析していく必要がある。

#### IV 学力等の把握のための学校としての取り組み

- 年度末学力テスト 2月25日実施予定 教科：国語、算数  
毎年、実施しており、昨年度は算数について細かに分析し、今後の追跡調査していく基なる資料を作成した。

※ まだまだ十分でなく今後の課題の一つとなっている。

#### V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 近隣校との研究協力と成果の共有  
年間を通して、他校の教諭4名に研究協力員を依頼し、自校での取り組みや本校の取り組みを協議検討しあい、双方向において研究を深め合った。
- 地方教育センターとの連携  
教育センター講座と協力しあって、授業研や本校の研究を提案したりして、成果を普及してきている。
- 校内授業研究の近隣校への公開（5月29日、6月18日、7月2日）  
丸山町内の小中学校及び、近隣校に授業研の情報を提供し、毎回数名の参観が得られた。
- 授業公開研究会の開催（11月21日）  
県下より280名余りの参観者を得て、授業実践や各校の取り組みを交換し合ったりした。
- 研究紀要の配付  
11月に研究紀要を発行し、公開研究会で配付したり、依頼に応じて配送したりしている。

【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校

【学校規模】  6学級以下  7～12学級  
 13～18学級  19～24学級  
 25学級以上

【指導体制】  少人数指導  T. Tによる指導  
 一部教科担任制  その他

【研究教科】  国語  社会  算数  理科  
 生活  音楽  図画工作  家庭  
 体育  その他

【研究教科】

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無